

第20回「京都市ごみ収集業務評価推進会議」

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、持ち回りにより開催し、次のとおり評価及び意見をいただいた。

日 時 令和2年4月21日（火）～4月28日（火）

出席者 （敬称略 五十音順）

委員 菊 池 健太郎（公認会計士）

〃 小 島 一 芳（市民公募委員）

〃 高 橋 かつ子（京都市ごみ減量推進会議理事）

会長 中 井 歩（京都産業大学法学部教授）

委員 中 野 比佐子（市民委員）

〃 西 川 恵理奈（市民公募委員）

〃 松 川 杏 寧（人と防災未来センター主任研究員）

〃 山 本 菜 摘（市民公募委員）

事務局 京都市環境政策局循環型社会推進部まち美化推進課

議事内容 ○ 報告事項

- 1 本市の取組状況（令和元年度）について
- 2 令和元年度「京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査」の結果について
- 3 令和元年度の業務履行に対する評価及び意見に向けて
- 4 市民アンケート調査及び評価方法の今後の方向性について

各委員の評価及び意見

1 本市の取組状況（令和元年度）について

- 我々の日常は、自然環境を始め、日々様々に変化する様相に、早期に、その都度対策を立て、より快適な市民（日常）生活が出来るように、色々と対処されている様子を改めて知らされた。今後の視点（活動）としては、増加する外国人観光客に対し、京都市が実施しているごみ政策を何らかの形で徹底させることが必要。
- ごみ収集業務・満足度が高まっている委託業務・委託化7割を目指してください。職員研修について安全運転を、市民目線に立つ事も大事ではあるが、収集員は公務

員であることを認識し、この仕事に誇りを持って収集していただきたい。市民も感謝の気持ちで挨拶を交わす。

- 使い捨てプラスチックの削減について、給水スポットの情報発信、排出業者に発生抑制を。
- 現在私の行政・学区においては、ごみ収集業務は的確に行われており、ごみ減量も少しずつ進んでいる。
- 交通事故0を目指していただきたい。
- リサイクル可能なものを燃やすことはコストや埋立地の問題もあるので、回収品目、回収拠点を増やしてはどうか。
- 災害時における迅速な対応というのはとても重要。緊急時の対応の良し悪しで、その自治体や業者に対するイメージが大きく変わるので、平常時に、緊急時の動線を何通りも考えておいてほしい。

2 令和元年度「京都市のごみ収集業務に関するアンケート調査」の結果について

- “アンケート調査票”を職員の方が対象者に直接依頼されているにも関わらず、回収率が各年度とも50%に達しないのは、我々京都市民意識の低さによると思うが、せめて、50%を少しでも超えることが達成できればと思う。
- 結果報告書も見やすく色分けされていると同時に、直営と委託の比較も項目ごとに一覧表になっていて見やすくいい。
- 調査対象を少し増やしてみてもどうか？回収状況いつも同じ、もう少し回収率を増やす努力が必要。
- まち美化事務所・エコまちの周知が必要。利用、相談しやすい対応をお願いしたい。
- 資源物回収拠点認知度が低すぎる。上京リサイクルステーションを「知っている」が10%。エコバスツアー等で上京リサイクルステーションに行くとか、上京リサイクルステーションの活用をお願いしたい。
- 直営と委託の比較、啓発シールを貼るのは当たり前、収集しなかった理由を大きく書くべき。「覚えていない」が43%とひどすぎる。
- 調査結果におけるものと、自分たちの区域とはほぼ同じだと思う。
- 作業員さんには気づいたら自分の方から声をかけるようにしている。
- 例年、回収率、意見ともに大差がないように感じる。アンケート方法を多様にし、回答数が増えれば現在ない案が見つかるのでは。
- 経年比較のとおり、今年度も収集業務は高い水準をクリアしていると思うが、回答しているのが主に60歳以上の方になっているため、なるべく広い年齢層からアンケートを集められればより良いと思う。

3 令和元年度の業務履行に対する評価及び意見に向けて

- 過積載の項目で「年末年始やGW時に一時的に大量のごみが排出されている」と記載されていたが、学生の街ということもあり、「年度末」に多量のごみが搬出されていることが、いつも気にかかっている。
- 平成30年度のごみの量は、ピーク時に比較すると極端に少なくなっているのは評価に値しますが、今後は燃やすごみ以降にプラスチック類のごみが日常の生活用品の多くを占め、増加していることに対する対策が必要と思う。
- 業務研修だけでなく、ごみのゆくえ・ごみ減量についての意識向上、地球温暖化について等、幅広く勉強して収集業務の大切さを認識してもらいたい。
- 収集していて困ったこと、改革すべき事業、携わっている事から見えてくる事を発表してほしい。
- 食品ロスについてはそれぞれがしっかりと心しなければならないと思う。
- 紙類（雑紙）が大変多くなっているように思える。折り込みチラシの量が増えている。
- 燃やすごみ内訳の詳細が気になるが、調理くず等、やむを得ず出るものは減らすのが難しい。
- マイボトルスポットの増加を期待。プラスチック製品包装の使用（製造を含む）を控えるだけで数%減るのではないか。
- 食品ロス関連事業については、様々な取組やメディア等で発信されているため、かなり生活に定着してきたと思う。大学ではごみの分別はかなり目にするが、食品ロスに関することはあまり目にしないので、食堂や大学生協と提携した取組があれば学生も意識することに繋がると思う。

4 市民アンケート調査及び評価方法の今後の方向性について

- 委託業者の中には、特に現場で作業する人は若年者（それらはおそらく契約社員・派遣社員・アルバイト・パート類）が多く、自分たちの仕事が京都市から「委託」されていることが「信任」であることを、ほとんど認識していない作業・動作・言動が見られる。研修をされているとは言っているものの、それが現場・最先端までいきわたっていないことが残念に思い、今後の課題ではないか。
- 今まで通りのアンケートは必要。今後は高齢者に対するごみ収集（まごころ収集の周知）。ごみの分別、リサイクルに関する知識等、どこかで調査し啓発出来たらいいと思う。
- アンケート案として、委託業者別、市職員収集の合同研修としてはどうか。困っていることなどを話し合い、解決策を考え、収集業務を有意義なものにして考えるように。
- ごみ収集業務については良好な状態であるように感じている。

- カラスネットをかけていても効果がないのではと思う時がある。野良猫の問題は地域でのことだが困っている。
- 女性会では、まち美化事務所のお世話でゴミ減量についての学習等も行っている。
- どの業種でも事例により個々の臨機応変な対応が必要。交通事故や暴走運転をする者のいる事業者は契約取消など厳しい処分をお願いしたい。現在、市民が問題と指摘していることを契約までに話し合う、説明会等を行ってもよいのではないか。
- Web上のアンケートはある程度若い方の意思が多いと思われるので、年配の方にはアナログ発信すれば知恵がいただけると思う。

5 その他

- 以前から提案しているが、交通（道路）事情の関係もあり、なかなか実現は難しいようだが、各地域での回収到着時間（30～40分の遅れは仕方がないが、設定時間より早い時間に回収されてしまうのは困る。）を何とか調整・設定できないか。
- コロナウイルス感染騒ぎのなか、収集業務に携わっている方々に感謝している。世の中の為がなばっていただくよう心から願っている。
- ゴミとなるものを始めから作らない、使用しない。消費者は購入時、過剰、不要なゴミを、押し付けられている。例えば、プラスチック製包装を紙、布製に代える。製造、販売者へ協力を求める。必要であれば条例を作るなど、できることはあると思う。京都人のもったいない精神を刺激し、循環型社会へと導いていただけたら幸甚である。